

出題分析			
試験時間	90 分	配点	80 点
		大問数	5 題
分量 (昨年比較)	[減少] 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化] 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>大問 I が対話文読解問題、大問 II～V が長文読解問題という例年通りの大問構成である。大半は選択式の設問だが、ほぼすべての大問で記述式の設問が 1～2 問出題されている点も従来通りであった。昨年度は読解量が大幅に増加したが、今年度は例年通りの分量に戻っている。内容的に見ても大問 I～IV の英文は比較的読みやすい。また、選択式の設問では全体的に紛らわしい選択肢が少なくなり、判断に悩む問題は減少した。90 分という試験時間内で解答するには読解量や設問数が多く、受験生にとっては依然としてかなりの負担だとは思いますが、昨年度との比較では易化と言ってよいだろう。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	対話文読解問題 (会社の同僚同士の対話)	空所補充、同意表現選択、語句整序が出題された。同意表現選択と語句整序は、該当箇所の前後の対話内容から比較的容易に意味を推測できるので解きやすい。一方、空所補充は選択肢に会話文特有の表現が多く含まれており、知識がないと苦労するだろう。	標準
II	長文読解問題 (スポーツ大会の参加資格として最低年齢を設ける必要性)	同意表現選択、内容(不)一致文選択、表題選択、語句整序が出題された。論旨が明快な文章であり、同意表現選択、内容(不)一致文選択、表題選択は紛らわしい選択肢もなく解きやすい。語句整序は並べ替える語数が 6 語と少ないものの、不要語が 2 語含まれており、どのような文構造にすべきかを判断しづらいので厄介である。	標準
III	長文読解問題 (幸福の追求が不幸をもたらすというパラドックス)	同意表現選択、空所補充、内容(不)一致文選択、語句整序が出題された。やや抽象的なテーマの文章であるが、具体的な実験結果等が示されており論旨は把握しやすい。同意表現選択、空所補充、内容(不)一致文選択は特に難しいところはない。語句整序は標準的な難易度であるが、設問 5 は並べ替える語数が 11 語と多いため手間取るかもしれない。	標準

IV	長文読解問題 (外食産業におけるサステナビリティへの取り組み)	内容真偽、同意表現選択、空所補充が出題された。外食産業で導入されている様々なテクノロジーに言及した文章である。内容真偽は昨年度より2問増加し、計7問の出題となった。本文を読み進めながら該当箇所に関する設問を解いていく、手際の良さが求められる。同意表現選択、空所補充はそれほど難度の高い語彙が含まれておらず、いずれも標準的な難易度であった。	標準
V	長文読解問題 (予測AIと人間固有の価値)	同意表現選択、空所補充、内容(不)一致文選択、指示内容抜き出しが出題された。AIをテーマにした文章は目にする機会が多いが、本問の英文はpredictive AI(予測AI)に焦点を当てている点特徴的である。同意表現選択は大問I～IVと比べると語彙の難度が高い。空所補充では細かい前置詞・副詞の用法が問われている。内容(不)一致文選択は判断に迷う設問が含まれていた。指示内容抜き出しは標準的な難易度である。	やや難

合格のための学習法

早稲田大学商学部の英語の問題は、基本的な出題形式や傾向がおおむね一定している。語彙レベルはやや高いものも散見されるが、文章の内容自体にそれほど難解なところはない。しかし、試験時間に比して読解量と設問数が多いため、結果として難易度は高くなる。返り読みをせずに一読して内容を把握する速読力を身につけたい。また、年度によっては選択肢に紛らわしいものがあり、判断に迷う設問が見られることもある。1つの設問にあまり時間をかけすぎずに、90分という制限時間内に一通り解き終えることができるよう、時間配分に気を配った演習を積み重ねることが効果的であろう。